

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない計画についても記述する。（指示されている図示は必須とする）

(1)美術館本館、駐車場との関係性において、建築計画で配慮した点

当該敷地は、旧美術館敷地内であり、本館、南側駐車場との関係性から、本館は東側に、駐車場は南東側に風除室を設けアプローチに配慮した。案内カウンターをエントランスホール中央部に計画し、西側道路からのアプローチを含む3方向からの来館者への案内性を高めた。	具体的に図解せよ
--	--------------

(2)ご神木を活かすために配慮した点

ご神木は工事中も一切移設しないよう施工計画を立て、本施設完成後は、日だまりラウンジをご神木北側に配置し、かつ上部を3層吹抜けにすることで、各階の共用部からこのご神木が観られるよう配慮した。またご神木の足下を踏まれないようにその下部を立ち入り禁止とした。	具体的に図解せよ
--	--------------

(3)様々なイベントを行う多目的展示室の設備を含む設えについて配慮した点

建築計画: 気軽に誰でも参加できるように、エントランスホールに面して計画した。外部からも利用内容がわかることができるように開口部は極力ガラスを使用した。外部と遮断したい場合を想定し、遮光ブラインドを採用し、暗転できるよう配慮した。	
設備計画: 様々なイベントで利用できるよう照明は調光できるタイプを選定した。空調負荷に耐えられるよう、2m ² /人を想定し空冷HP床置きダクト接続型空調を選定した。利用者のイベントでフリーwifiが使えるよう通信環境にも配慮した。	

(4)廊下を含む共用部の排煙について配慮した点

廊下を含む共用部分は避難経路となるため、面積の1/50以上の排煙ができるよう、できる限り廊下の突き当りは排煙窓付の開口部とした。1/50に満たない2階の共用部については、機械排煙とし、機械排煙口及び排煙ダクトを設けると共にエンジン付排煙機を屋上設備スペースに設けた。

(5)不忍池跡地に対して、基礎の選定理由と対処した点

5m程度までは地耐力が見込まれないため、池があった部分を中心に全面的に地盤改良を行った。その上で、不同沈下強く、湧水ピット等にも利用できるベタ基礎を採用した。

(6)防火区画についてその区画方法と利用した防火設備について

面積区画については、各階で行い、それにかかわる2階及び3階の階段、エレベーター、吹抜け部分については特定防火設備とした。1階部分の階段、エレベーター、吹抜けは、堅穴区画として処理し、防火設備を設けた。2階の大展示室は堅穴区画となるため、出入口を防火設備とした。また面積区画及び堅穴区画にかかわる外部開口部については、90cm範囲内を区画できる壁、もしくは防火設備とした。

(7)エントランスホール及び大展示室で採用した空調方式とその理由

エントランスホール: 空冷ヒートポンプパッケージ方式天井カセット型 省エネ、省スペース、空気熱源による環境負荷低減から、同方式を採用した。
大展示室: 空冷ヒートポンプパッケージ方式床置きダクト接続型 上記と同じく省エネ等であるとともに、天井高さ6mであることからより出力のある同方式を採用した。

(8)日射を遮蔽しつつ日光を取り入れるために工夫した点

具体的に図解せよ 	南側の開口部については、庇及び水平ルーバーを採用し、視界を遮ることなく、日射を遮蔽しつつ光を取り入れるよう配慮した。東側及び西側開口部については、垂直ルーバーを採用し、同様に視界を遮ることなく、日射を遮蔽しながら光を取り入れることを可能とした。
--------------	--

(9)建築環境負荷低減に配慮した点(3点ただし(8)除く)

①Low-Eガラスの採用 開口部には全てLow-Eガラスを採用し、かつ複層にすることで断熱性能も高めた。 ②節電器具の採用 インバーター制御をはじめ、自動消灯LED等、節電器具を積極的に採用した	具体的に図示せよ
③節水器具の採用 節水便器、節水水栓等の節水器具を採用し、環境負荷低減に配慮した。	

※要点・図面・エスキースの裏面には念のため、氏名のみお書き添えください。
製図試験comIDのない方はIDは空欄をお願いします。受験番号とかは書かないようにしてください。

ES00

- ① 既存美術館敷地内タイプ。
- ② 敷地 47x33. ご神木?
- ③ 要求室 → 400㎡?
- 大空間: 大展示室 400㎡ → 1022
- 多目的展: 160㎡ → 422

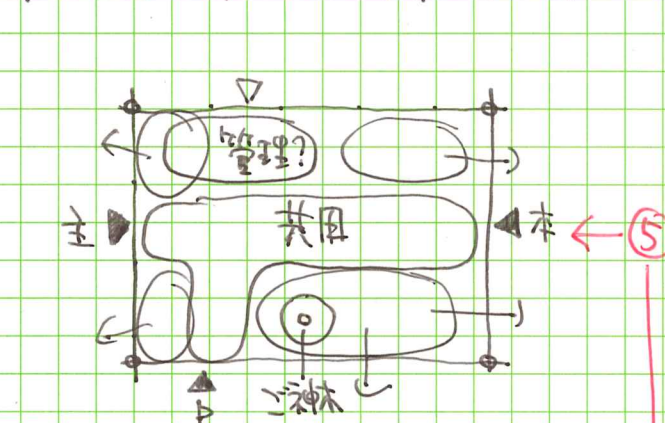
ES01

- ・ 3也 → 分館に。
- ・ 12mのご神木 24.
- 4 留意事項
- (2) 本館, 異端端からの視線!
- 3. 要点
- (1)(2) あり 注意。

ES02

- ④ 注意
- (3) ① 屋上図面 ② ③

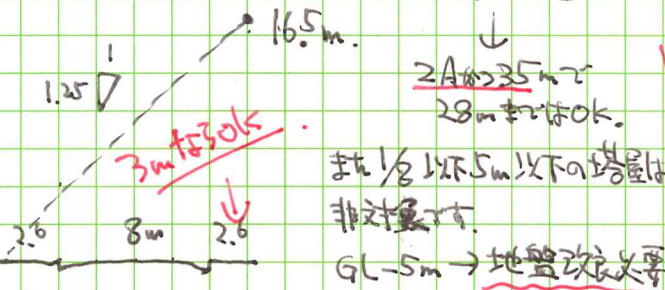
ES03 両側道路, 本館, 南のP.A.!



1Fが3つの方向からP.A.に分析。

建坪率70% → 1551x70% = 1085.7 → 25.822

北側8m道路 住居系斜線制限



ES04 建築物

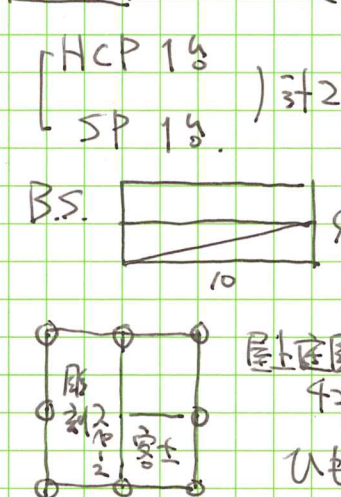
3F/地下4F

1900	1900	1900
2300	2300	2300



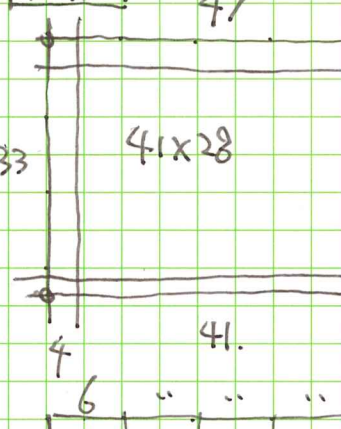
面除4項+3項, 60㎡+30㎡+4.

ES05 その他の施設

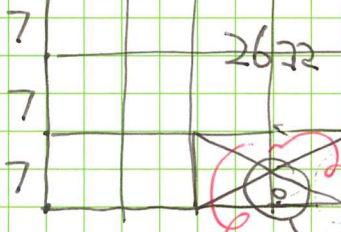


屋外広場(13x9) 1F

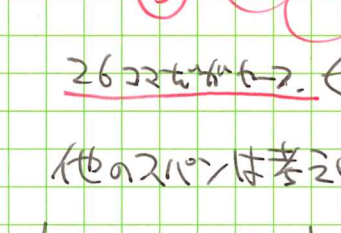
ES06



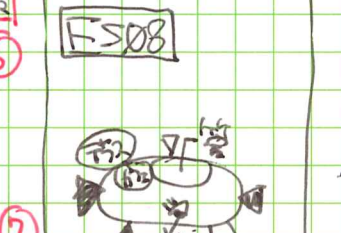
ES07 全室12



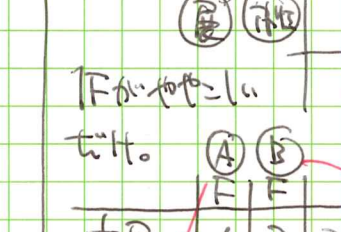
ES08



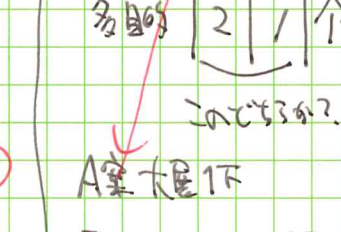
ES09



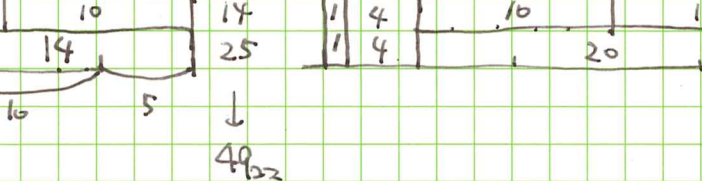
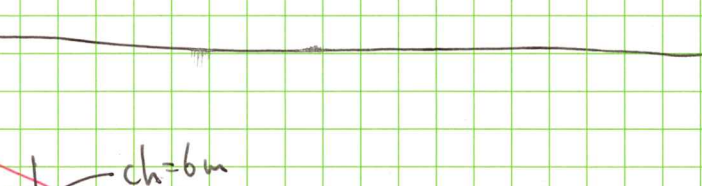
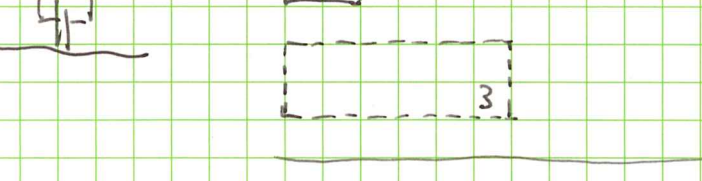
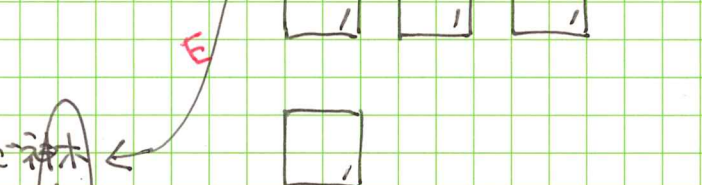
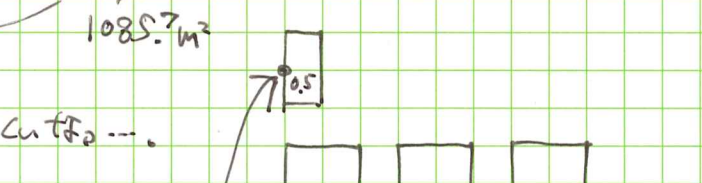
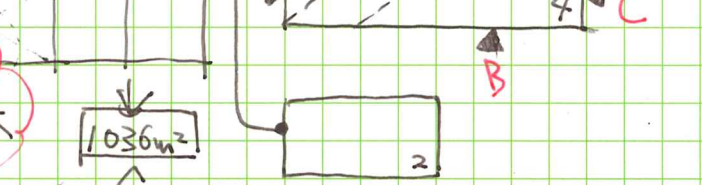
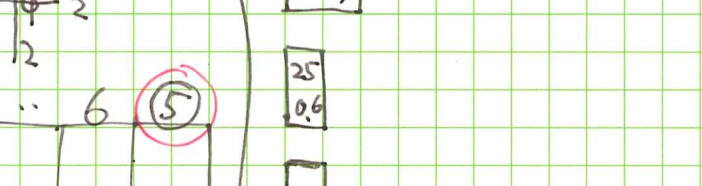
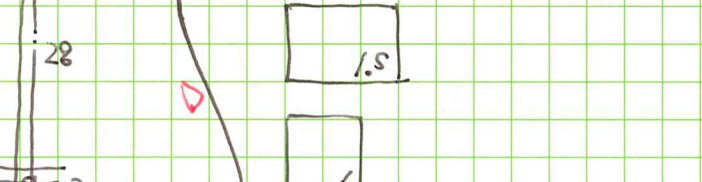
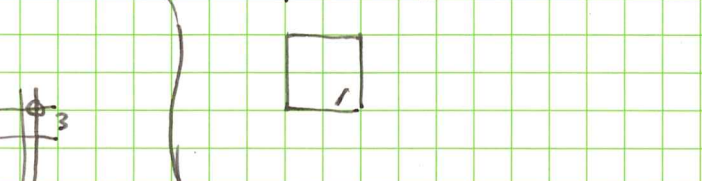
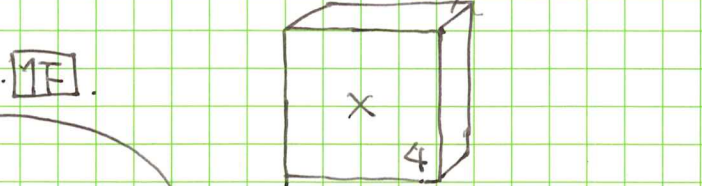
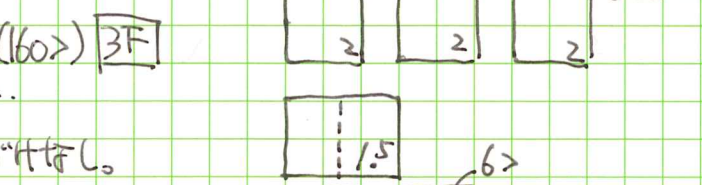
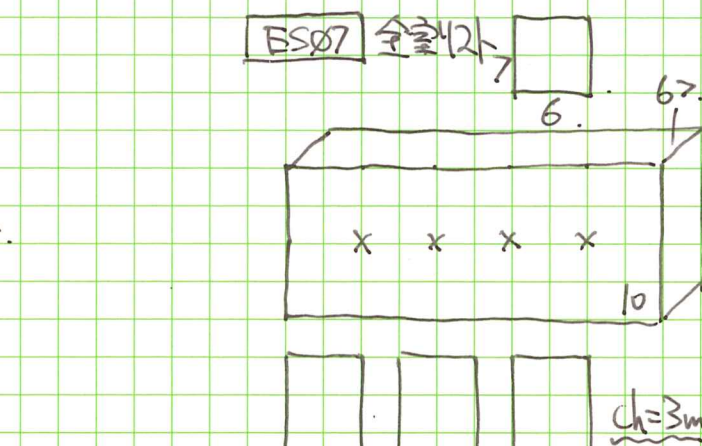
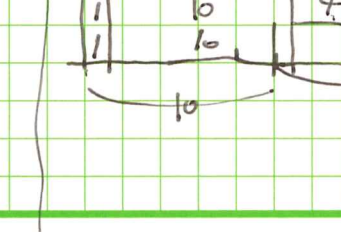
ES10



ES11



ES12



大展 (10 → 10) ⑨

中展

小展

多目的展

待客室 (1F) 22.5 → 20

PA

PB

PC

ラウンジ (35) → 6

吹抜 (40)

エントランス (1F)

カフェ (1F)

日当たり

便所 (15) → 13

事務室 ① 12

屋上設備入れ

34.5 → 51
50
1.44x1.5

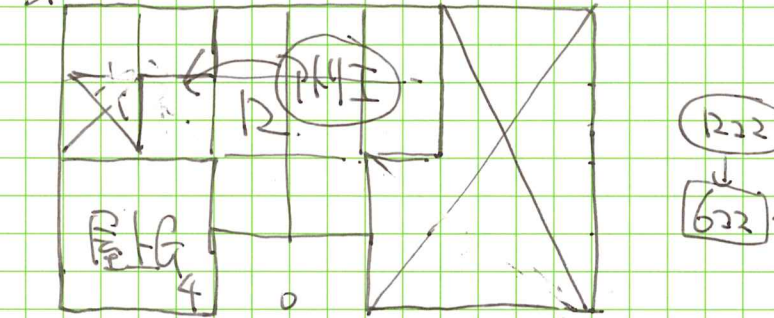
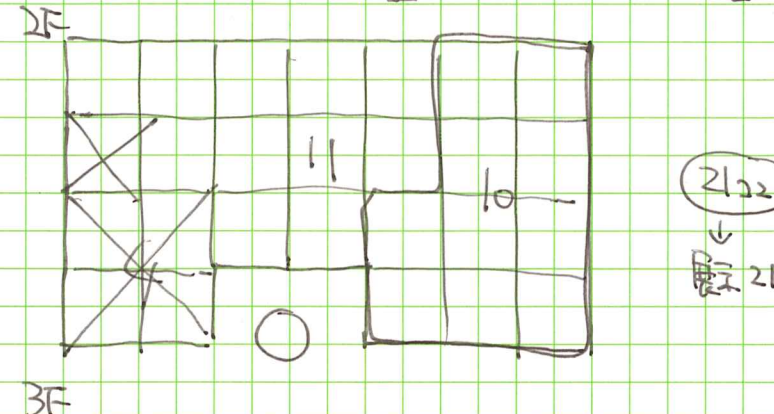
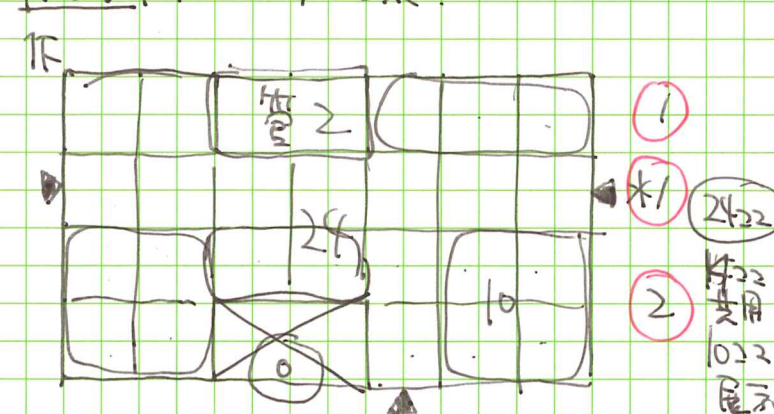
展のPCC 24.5 → 46

1分ok.
→ 3.57x4.5 ⑩

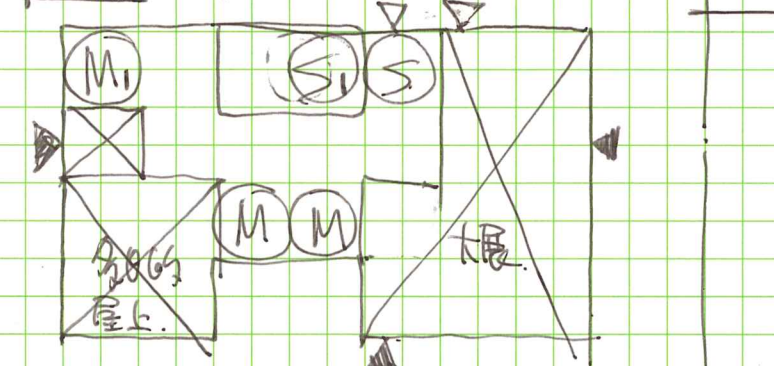
新館 A~E 5本 ⑪

ES09. ポイントは①~②. 大きな斜線は. 大展2F/多目的1F → 11x11 → 多目的は用途が少(5x3).

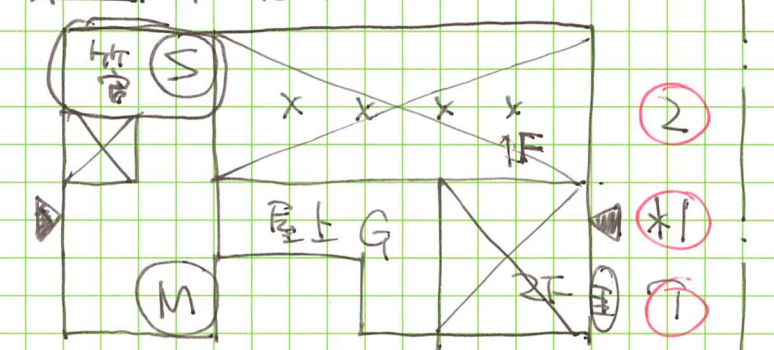
ES10 Y-型 B棟



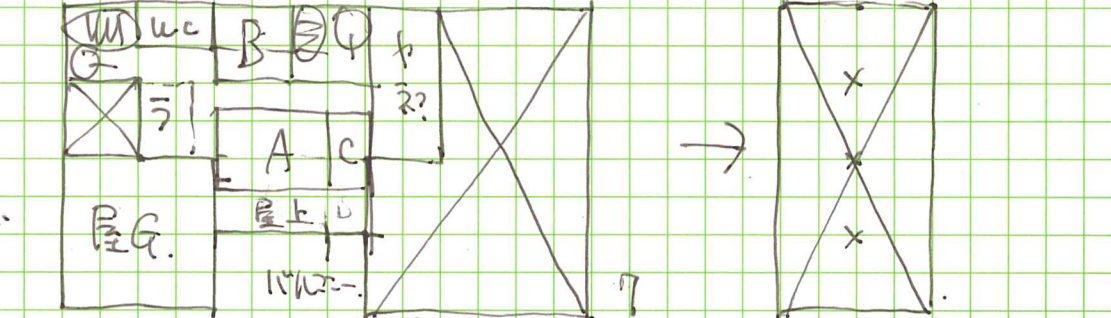
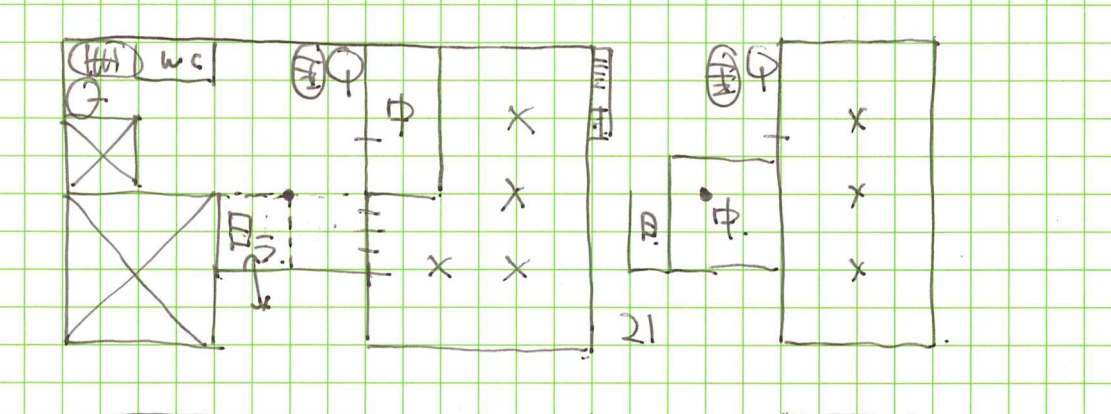
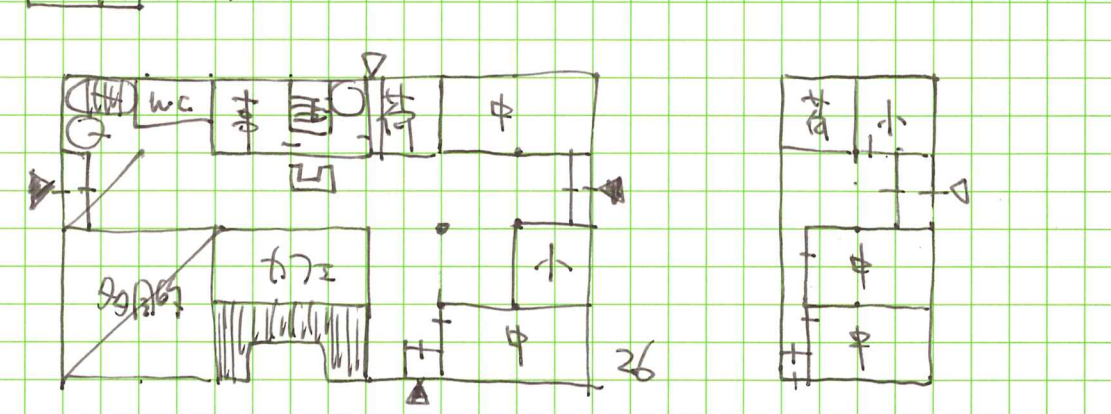
ES11 2F Y-型



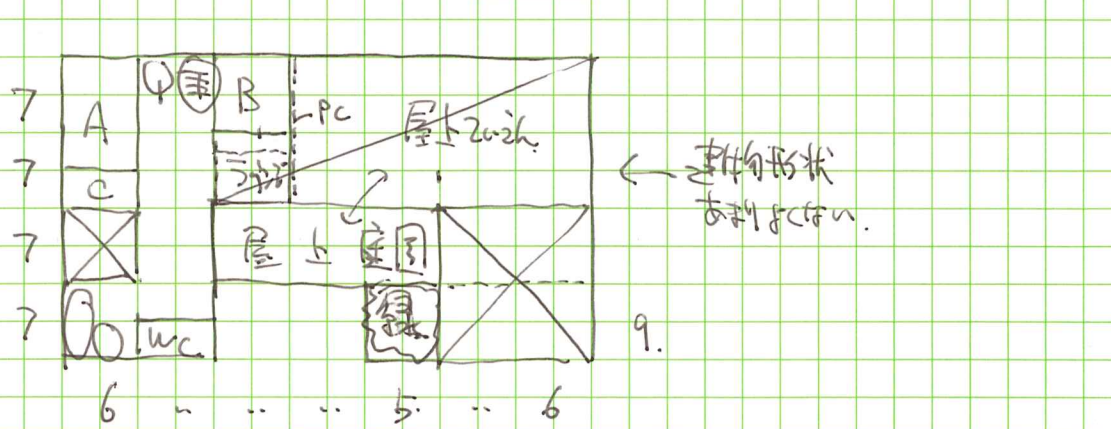
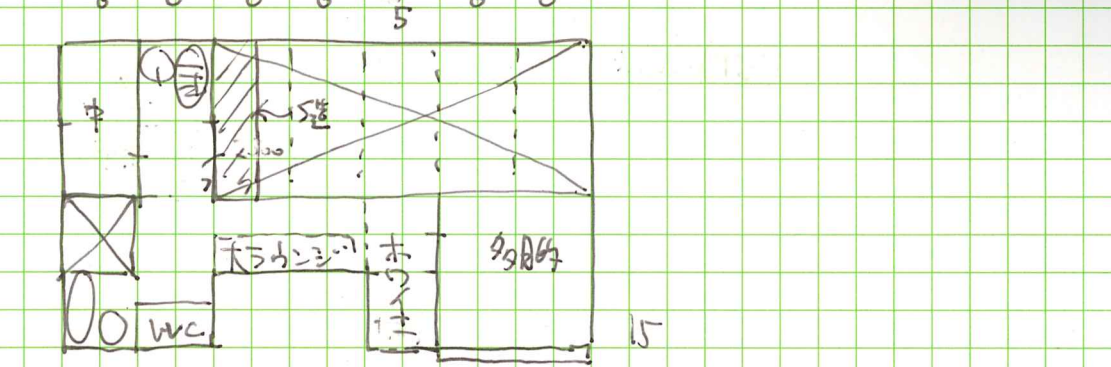
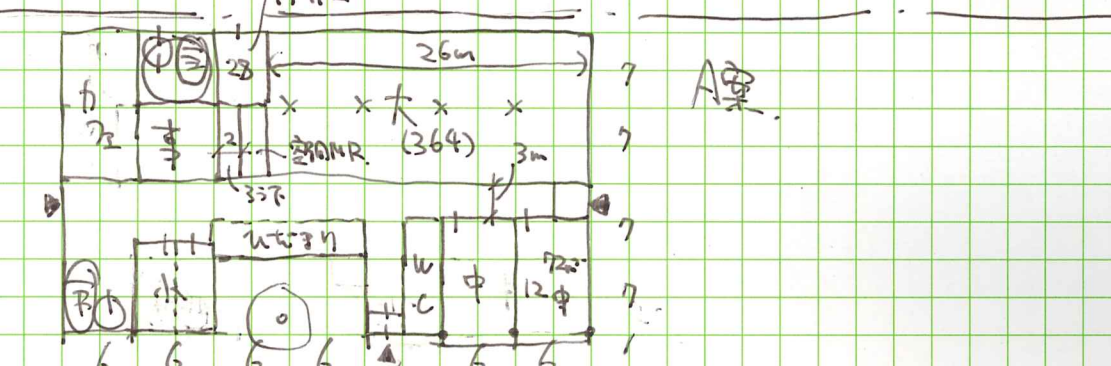
ES12 cf: A室は...



ES12 M.S. 2nd Floor



7 7 (7x8x40k).
14m. (5x28=420)



面積表 (算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)		製図試験.com 答案用紙 I		エスキース	提出	添削
建築面積	(算定式)	m ²	1,02 A室修正.	所感	校数	課題No
建ぺい率	(算定式)	%		要点		11月
床面積	(算定式)	合計		作図		
階	(算定式)			10		310000
階	(算定式)			ハンドルネーム		Zone
階	(算定式)	m ²				